

自動冷却運転機能について

◇ 運転停止操作時のヒータ各部のセンサ温度による停止状況判定をおこないレベル1、2の2段階にて自動冷却運転をおこないます。

● 自動冷却運転レベル1

運転停止操作時にヒータ各部のセンサ温度がレベル1を超えている場合に最小風量(風量設定70%)の送風運転をおこないます。

ヒータ各部のセンサ温度がレベル1以下になるまで冷却し送風運転を停止します。

● 自動冷却運転レベル2

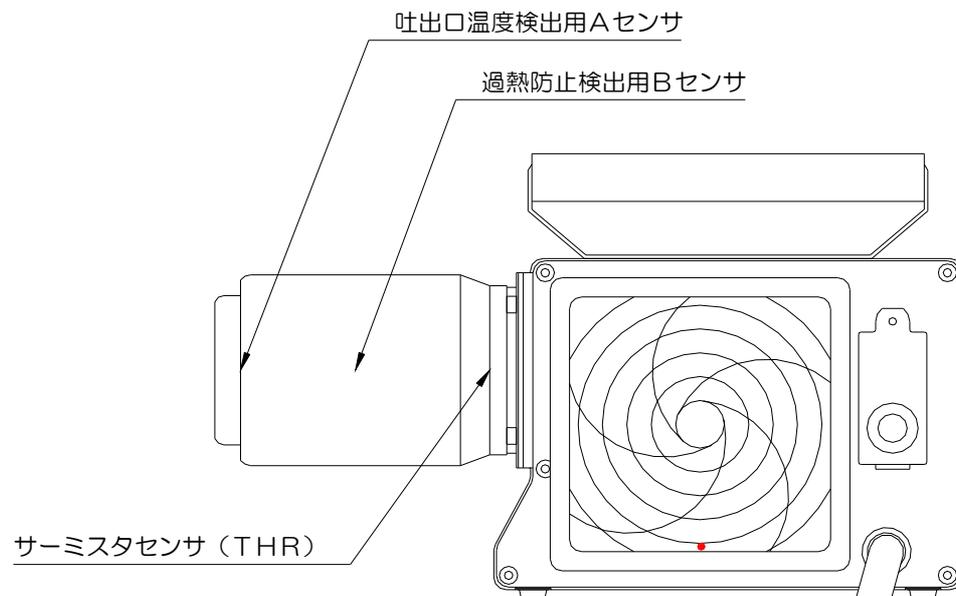
運転停止操作時にヒータ各部のセンサ温度がレベル2を超えている場合に風量設定値の送風運転をおこないます。

ヒータ各部のセンサ温度がレベル2以下になるまで冷却し自動冷却運転レベル1に移行します。

【自動冷却運転各レベルセンサ温度】

	吐出口温度検出用Aセンサ(TCA)	過熱防止検出用Bセンサ(TCB)	サーミスタセンサ(THR)
レベル1	60℃	50℃	45℃
レベル2	90℃	70℃	50℃

【ヒータ各部センサ位置】(指示位置は、おおよその位置です)



※ 停止中に各センサが自動冷却運転レベル2の温度を検知するとレベル1の自動冷却運転をおこないます。

※ 自動冷却運転中に熱風・送風運転に切り替えた時、自動冷却運転を中止し熱風又は送風運転になります。

※ 自動冷却運転中に異常が発生した時、停止すべき異常(各センサ逆接続・温度ヒューズ断線・送風機異常2)が発生した時、自動冷却運転を中止し停止します。

※ その他の異常時は、停止条件時において自動冷却運転後停止します。
自動冷却運転開始時は、チャープ音(ピー)となり自動冷却運転中ランプが点灯(レベル2)・点滅(レベル1)します。